

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立思永中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 英語)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※ 全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、英語)の結果

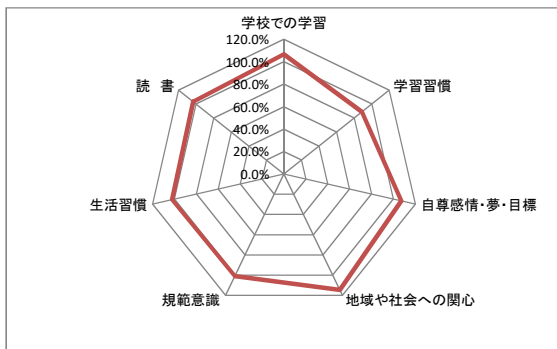
本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	6.9	69	8.9	56	10.6	51
全国	7.3	73	9.6	60	11.8	56

※英語「話すこと」調査に関しては、参考値のため、集計から除外している。

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国の調査結果と比べると、無回答率は、「語の一部を省いた表現について、話や文章の中で適切な活用の仕方を理解する」問題で同程度であったのを除き、他の問題では全て全国の無回答率を下回っていた。「読む能力」にかかわる問題の正答率が全国の正答率より5ポイント下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「相手にわかりやすく伝わる表現について理解する」問題と「書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する」問題で、全国の正答率を上回っていた。	
	努力が必要な問題	「文の構成や展開、表現の仕方について、概観を明確にして自分の考えをまとめる」問題と「文の展開に応じて情報を整理し、内容を捉える」問題で正答率が全国平均を5ポイント以上下回っており、「文章を読み取る力」に課題を持つ生徒が多いと考えられる。	
数学	全体的な傾向や特徴など	全国の調査結果と比べると、「簡単な場合について、確率を求めることができる」問題を除き、全国の無回答率を下回っていた。「数学的な技能」に関する問題の正答率が全国の正答率より5ポイント以上下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「反比例の表からxとyの関係を式で表すことができる」問題とグラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈することができる」問題、「反例の意味を理解している」問題で全国の正答率を上回っていた。	
	努力が必要な問題	「簡単な連立二元一次方程式を解くことができる」問題と「簡単な場合について、確率を求めることができる」問題の正答率が全国の正答率を10ポイント下回っていた。「数学的な技能」に課題を持つ生徒が多いと考えられる。	
英語	全体的な傾向や特徴など	全国の調査結果と比べるとすべての問題で無回答率はほぼ同程度か全国を下回っていた。特に、「聞いて把握した内容について適切に応じることができる」「書かれた内容に対して自分の考えを示すことができる」ような話の内容や書き手の意見などを捉えることができる」「与えられたテーマについて考えを整理し文と文のつながりに注意してまとまりのある文書を書くことができる」問題では5ポイント以上下回っていた。「書くこと」「言語や文化についての知識・理解」に関する問題で全国の正答率を5ポイント以上下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「日常会話について簡単な文で書かれたものの内容を正確に読み取ることができる」など読み取りに関する問題で、全国の平均正答率を上回っていた。	
	努力が必要な問題	「文の中で適切に接続詞を用いることができる」「一般動詞の2人称数現在時制の疑問文を正確に書くことができる」等の問題で全国の正答率を下回っており、「書くこと」「言語や文化についての知識・理解」に課題を抱えている生徒が多いと考えられる。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
学習について、自ら計画を立てて勉強をしている生徒は、全国平均を上回っているものの、1時間以上家庭等(学校以外)で学習する生徒の割合は全国平均を下回っていた。自ら課題を見いだして情報を集めて整理したり、自ら考え、自ら課題の解決に向けて取り組んだりする生徒の割合は全国平均を上回っている。また、読書に親しむ生徒の割合も全国平均を上回っている。
毎朝朝食をとり、決まった時間に就寝する生徒、学校の決まりを守っている生徒の割合が高く、基本的な生活習慣が身に付いている生徒が多いといえる。また、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の肯定的な回答の割合が全国平均を上回り、地域社会への関心の高い生徒が多いことがうかがえる。
「自尊感情・夢・目標」において、肯定的な回答をした生徒の割合は全国平均を上回り、夢や希望に向かって努力している生徒が多いことも分かる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

各教科の授業の中で、生徒が自ら考え、表現する活動の時間を確保し、考えを伝え合う場面や他者の考えを参考にして自分の考えを深める場面のさらなる充実が必要である。また、文章をしっかりと読み、内容を読み取らせ、理解したことを表現させる活動もさらに充実させていく必要がある。

② 家庭生活習慣等に関する取組

学習した内容を基に、自ら考え表現するような発展的な課題を準備し、学校以外での学習習慣(特に家庭学習の習慣)が身に付くような取組を継続する。また、PTAの会合や保護者会等を利用して、家庭学習の重要性と取り組ませ方についての啓発を継続する。